

平成29年度 第1回刈谷市行政評価委員会 議事要旨

- 日 時 平成29年5月24日（水）午前9時30分～10時30分
- 場 所 刈谷市役所 603会議室
- 出席者 昇秀樹、吉本理沙、佐野真紀、奥村勇雄、面高俊文、山田達也、野村裕子、森雅博
- 事務局 市長、両副市長、企画財政部長、企画財政部企画政策課長 他
(以上、敬称略)

1 議題・協議結果

(1) 委員長の選出について

昇秀樹委員を選出。

(2) 委員長職務代理者について

吉本理沙委員を選出。

(3) 行政評価の進め方について

資料「平成29年度第1回刈谷市行政評価委員会」により説明。平成29年度の外部評価のテーマは、第1部として「まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組等」、第2部として「教育に関する施策の内容」に決定。

また、第1部の評価対象は、基本目標「活動・交流・にぎわい支援」に位置付く「刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出」と、基本目標「住環境整備」に位置付く「公共交通ネットワークの充実」に決定。

(4) 外部評価対象事業選定について

資料「外部評価項目選定調査票」により説明。第2部の評価対象は、総合計画に位置付けられている教育委員会所管の施策のうち、各委員の選定により決定。

(5) 今後のスケジュールについて

資料「平成29年度第1回刈谷市行政評価委員会」により説明。今年度は年2回の開催とすることに決定。

2 会議資料

資料；平成29年度第1回刈谷市行政評価委員会

資料；外部評価項目選定調査票

事前配布資料；第7次総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略

3 議事要旨

○会議資料の確認

○情報公開の確認

(1) 委員長の選出について

事務局 刈谷市行政評価委員会設置要綱第5条第1項に「委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。」と規定されているので、どなたか推薦をお願いしたい。

委員 「名城大学の昇秀樹教授」をお願いしてはいかがか。
(異議なし)

事務局 委員長は「名城大学の昇秀樹教授」をお願いする。

(2) 委員長職務代理者について

事務局 要綱第5条第3項に「委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。」と規定されているので、委員長から指名をお願いしたい。

委員長 「愛知大学の吉本先生」をお願いしたい。

(3) 行政評価の進め方について

(4) 外部評価対象事業選定について

(5) 今後のスケジュールについて

※関連があるため、一括して審議

(事務局より、資料の説明)

委員 外部評価項目を選定したあと、外部評価までの流れを教えて欲しい。

事務局 6月中に外部評価対象項目結果を通知し、外部評価の1週間前に担当部署がどんな考え方でどんな取組みをしてどんな成果があがっているかをまとめた内部評価結果の資料を委員に事前に送付し、当日は補足説明する。

委員 総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略の資料から、刈谷市が色々な事をしっかり考えて、実際に動いていることがわかる。本当にまちづくりが進んでいるのか疑問を持っている人がいるとすれば、我々がしっかり評価をすることに意義があり、責任を感じている。

また、もっと良いものができるかもしれないというものもあるので、そういう事を考えるのもこの委員会の役割と考えている。

委員長 外部評価の対象を総合戦略の中で基本目標3と4を選んだ理由と、総合計画の中から教育分野を選んだ理由は何か。

事務局 これまでの6年間の中で総合計画に位置付けられた取組みをいくつかピックアップし、色々な意見をいただいた。昨年は総合計画の中間評価も実施し、一定の評価をいただいたことから、一旦、総合計画の体系をベースとした評価は区切りをつけ、今年度は新たな委員も迎えたこともあり、総合戦略をテーマとして提案した。今、日本が抱えている人口問題について、刈谷は全国的な流れとは若干異なるものの行き着く先は同じなので対象とさせていただいたのと、この総合戦略の推進に対して国の補助金が入っており、事後評価として外部有識者の評価が要件になっている。その評価のために別に新たな委員会を設けることは非効率と考え、この委員会にて評価をお願いしたい。

基本目標3と4を選んだのは補助金が入った事業が位置付けられてるため、関連施策をふまえ、事務局にて選定した。

教育分野についても、外部評価を受けなければならない旨の法律があるため、学校教育、社会教育、生涯学習、スポーツ等から主なものをピックアップし、委員の多数決にて1つ選定したいと考えている。

委員長 教育分野の評価について、政策・施策・事務事業レベルでいうとどのレベルで行うか。

事務局 施策の内容が中心になる。

委員長 施策の内容という小施策レベルであるが、総合戦略の評価対象の「公共交通ネットワークの充実」も同じようなレベルか。

事務局 そのとおりである。

委員 今回のテーマで賛成である。これとは別の話になるが、総合戦略に2040年までに出生率2.07を目指すと記載してあることが大変良い。2.07という高い数値はなかなか目標にも書きづらいと思うが、刈谷市はきちんと示しているので、それを目指すうえでの具体的な施策などを聞いてみたい。

事務局 出生率2.07は個人の人生観に関わる部分もあるので、なかなか難しいとは考えているが、刈谷市は全国平均よりも高く、若者が比較的多い人

口構成のまちであるため、そこを目標に環境を整備していく。まず、子どもを生き育てやすい環境整備ということで、待機児童問題や子育て支援に関して力を入れて実施している。結婚支援については、そもそもどこまで行政が手を出していくか難しいところであり、そういった活動を行っている団体はいるので、うまく連携して進めていきたい。

委員 人口問題対策は色々あると思うが、それを推進するうえで人口減少するとどういった影響があるかなど、バックグラウンドを理解してもらうこともうまく取り入れていければ良い。

委員 刈谷市がどう絡んでいくのか、なかなかチャレンジできるような自治体はないので、そういったところには大いに関心がある。

委員長 出生率2.07になって欲しいと思うが、これはかなり厳しい。学会で発表されている理由として、まず欧米と違い日本の女性は結婚しないと子どもは生まない。婚姻率が0.7であることから、結婚する全女性が平均3人生んでようやく2.07になる計算になる。政府はこれまで触れてこなかった人口問題に取り組んだことは高く評価されているが、実現可能性がほとんどない数値になる。少子化対策はものすごく大事なことであり、こういった政策は賛成である。ただ、総合戦略は国や県の計画を踏まえて策定することになっているが、やはり目標は実現可能なものに設定することが大事だと思う。

委員 確かに実現不可能かもしれないが、働き方改革など色々チャレンジしている企業もあり、良い結果も出ていると聞いている。刈谷市もそういう気概をもってチャレンジしてほしい。

委員 毎年PDCAサイクルを回しているということで、刈谷市としてどう改善しているのか、その議論をしたい。

そのためにはきちんとしたデータを公開していくことが必要であるが、そういったデータはどのレベルまで出せるのか。

事務局 個人情報等出せないもの以外のデータは全て出している。これまではデータそのものを管理していないこともあったが、この行政評価委員会の中で、数値で成果、課題を説明できるようにとのご指摘により、職員もデータを取って示していくことが浸透してきたように思える。

委員 我々委員は人口16万人や出生率2.07を目指すためにどういう事業をすべきかという議論ではなく、それを目指すために策定した計画や、実

施した事業の評価の議論をしていくことと認識した。

委員 今回の対象とは別の話であるが、子どもができて刈谷に住み続けたい
が地価が高く、未就学児童の転出超過が顕著なので、その辺りを施策に
つなげるものがあれば良いと思う。

委員長 それでは、議題(3)から(5)までの内容を委員会として、異議がないよ
うなので承認する。最後に両副市長から一言ずついただきたい。

副市長 昨年の行政評価委員会で評価いただいた幼稚園、保育園、子育て支援
関係者など現場は刺激を受けている。現場の人たち向けに講演をする機
会があり、子育て環境を良くするという使命を盛り上げたいと思ってい
るので、政策としてやらなければならないこと、そのうえで自分たちが
どう関わっているかをこの委員会で議論があったことをふまえて伝えて
いきたい。

副市長 さきほど子どもを生んで小学生に入る頃に転出する傾向が強いという
指摘を受けたが、確かに地価が高いため周辺市町へ転出するという状況
は続いている。しかし、地価が高いということは刈谷市の価値がそれだ
け高いという評価でもあるため、なかなかこれを解決するのは難しいと
考えている。総合戦略で定住人口の増加と交流人口の増加を掲げている
ので、色々な意見をいただきながら進めていきたい。